

**実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等**

**1. 実践校について**

実践校名	(ひょうごけんりつひょうごこうとうがっこう) 兵庫県立兵庫高等学校		
学科名	生徒（児童）数	学級数	
普通科及び創造科学科	9 5 8	2 4	

**2. 実践研究の対象**

普通科の内、3年生未来創造コース（1クラス：40名）

創造科学科1、2年生（各1クラス：40名×2）

※ 実践活動の内容によっては、その他の生徒も対象とした。

**3. 実践研究の実施経過**

(1) 創造基礎A・B、RRE

①「創造基礎」の内の課題研究分野（1単位）

1 学期 課題設定と地域との協働体制構築のためのフィールドワーク及びボランティア活動

2 学期 課題研究をさらに深めるための県内外でのフィールドワーク及び実践活動

3 学期 実践活動の企画・運営、成果発表

具体的内容例（平成29年度の実践例）

- ・高校生鉄人化まつりの企画運営
- ・兵庫区コミュニティ新聞の発行
- ・地域をつなげる芸術イベント
- ・学校所在地である神戸市長田区をPRする動画作成・配信
- ・地方創生に向けて商店街活性化のための高校生が考える特産品の提案と展示即売
- ・地元商店街の魅力を紹介するパンフレットの作成と配布

②「創造基礎」の内の座学中心部分（1単位）

2 学期 民主政治と政治参加（法教育）（模擬選挙：自主教材添付）

財政（租税）・金融、社会保障の仕組み

3 学期 国際社会と日本

- ・年度末までの生徒の意識変容についての調査(対象1クラス、対照群2クラス)及び分析
- ③「RRE」(1単位)
  - 2学期 The global environmental issues and Japan.
  - 3学期 Problems and Solutions of Japanese Social Security Systems.
- ・学期末に兵庫教育大学の外国人教育研修生および留学生との交流会を実施

(2) 校外における研究発表

- ①関西学院大学「総合政策学部リサーチフェア」
- ②金沢大学「第1回 金沢大学 高大接続ラウンドテーブル」
- ③福井大学「実践研究福井ラウンドテーブル」
- ④立教大学「第5回シティズンシップ教育ミーティング」

#### 4. 実践研究の実施体制

事業実施のため次の委員会を設置した。

##### 1. 校外組織

社会参画推進委員会

構成……学識経験者、NPO法人代表、地域住民団体代表、行政関係職員(兵庫県、神戸市)、県教育委員会職員、保護者、学校関係者

開催回数……年1回

協議内容……プログラム開発及び実施内容・発信方法に関する助言

##### 【平成29年度委員】

- 水山 光春 (教育評価、社会科教育：京都教育大学教授)
- 廣岡 徹 (教育経営、社会科教育：兵庫教育大学大学院 元教授)
- 志摩 直樹 (県立教育研修所 教務部長)
- 東末 真紀 (NPO法人 神戸まちづくり研究所)
- 田中 丈之 (神戸市長田区まちづくり推進部まちづくり課長)
- 青木 勝一 (兵庫県企画県民部ビジョン課班長)
- 遠山 八千代 (兵庫県教育委員会高校教育課担当指導主事)

##### 2. 校内組織

###### (1) 社会参画に係る調査研究推進委員会

委員長 兵庫高校校長

副委員長 兵庫高校教頭

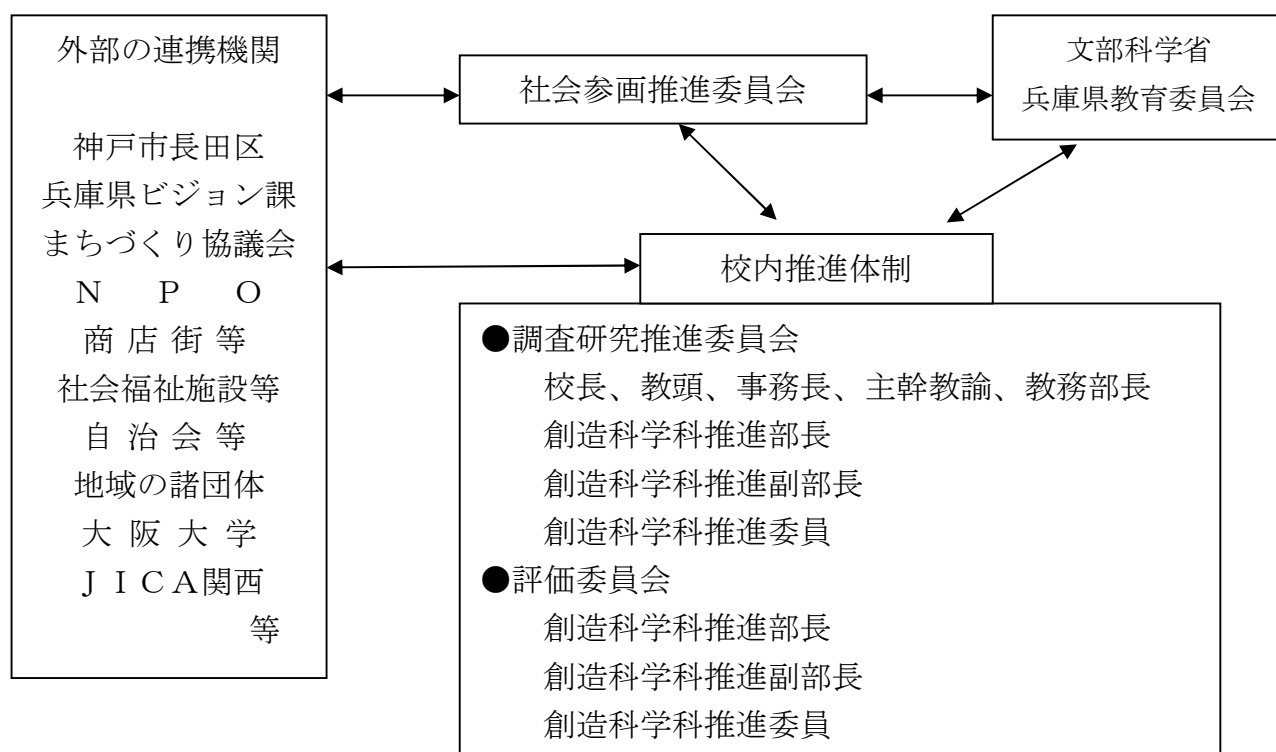
委員 事務長、主幹教諭、教務部長、創造科学科推進部長、同副部長、同委員

###### (2) 社会参画に係る評価委員会

委員長 兵庫高校教頭

委員 創造科学科推進部長、同副部長、同委員

## 兵庫高校の社会参画に係る実践力育成のための調査研究推進組織の概要



### 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

県教育委員会では、本事業が円滑に実施できるように、県立教育研修所教務部長が社会参画推進委員会のメンバーとして学校に助言を行うほか、高校教育課に担当指導主事を置き、日常的に学校の相談に応じられる体制をとった。

### 6. 実践研究の評価等

#### (1) 社会参画推進委員会における検証

社会参画推進委員会に対して、実施状況について報告するとともに、生徒の活動の参観、生徒の意識変容に関するアンケート結果の報告等を行い、各委員から評価やコメントをいただいた。

#### (2) 生徒の意識変容に関するアンケートによる検証（別紙1および2）

事業終了前の平成30年2月に生徒の社会参画に関する意識調査を1年生の創造科学科（1クラス40名）、対照群として普通科2クラス（80名）を対象に行い、比較、分析した。また、創造科学科2年生、未来創造コース3年生の1年時のデータと比較した。

これらの検証を通して、学校設定科目「創造基礎A・B」「RRE」による学びと、課題研究に基づく様々な実践活動により、生徒の社会参画に係る実践力が育成されるとともに、社会に参画する意識も着実に定着していることが確認できた。また、授業の進め方の工夫や教員の係わり方の改善によって、意欲がより高まることが創造科学科2年生、未来創造コース3年生の1年時のデータとの比較で明らかになった。

#### (3) 担当教員の意識変容に関するアンケートによる検証

創造基礎Bの担当教員6名を対象に、生徒に実施しているアンケートのうち社会参画に関するものを実施し、さらに意識変容について記述式のアンケートを実施した。アン

ケートの結果、生徒と同様に社会参画意欲を高めた教員もおり、生徒に併走して活動に取り組む姿が、（２）で述べた生徒の意欲の高まりに影響したのではないかと推察される。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実施校名：兵庫県立兵庫高等学校（創造科学科）

### 1 概要

地域の諸団体と連携しながら地域の現状と課題を研究し、改善のための提案や解決に向けた実践活動を通して、生徒が地域における主権者として自立するための基礎的な能力や態度を育成する学習プログラムを開発する。また、国際協力に関する課題研究等を通して、地球市民としての基礎的な能力や態度、実践力を育成する学習プログラムを開発する。

### 2 学習プログラムのねらい

主権者として自立するための基礎的能力・実践力を育成し、高校生の主権者意識を涵養するとともに、社会の発展に寄与する力の育成を図る。

### 3 学習プログラムの主な内容

対象：1年生（創造科学科 40名）

☆ 学校設定科目「創造基礎」（2単位）において、前期（4月～9月）に地域のまちづくりに関する課題研究「“輝ける未来創造都市”神戸の実現に向けて、高校生の力を発揮しよう！」を実施し、グループごとにテーマを設定し施策提言を行うとともに、後期（10月～3月）に課外活動として、課題研究を更に深めるためのフィールドワークや提言に基づく実践活動等を企画・実施した。また、学校設定科目「RRE」（1単位）において、テーマについて学習し、英語でのプレゼンテーションや外国人留学生との交流を通して、課題研究を実施した。

☆ 「創造基礎」の内の1単位分とRRE 1単位については、「現代社会」の内容に環境問題や人口問題、労働問題、地域課題、選挙や政治、日本経済、国際問題等に関する内容を組み合わせ、主権者として自立するための基礎的能力を育成した。

#### ① 外部講師による講義

- ・神戸市長田区役所まちづくり推進部まちづくり課長による、少子高齢化、多文化共生、中心市街地活性化、震災復興、環境問題、コミュニティー等についての講義
- ・古川・片田法律事務所代表古川拓氏、過労死等防止対策推進兵庫センター共同代表西垣迪世氏による講義
- ・NPO 法人 Youth Create 代表原田謙介氏による社会参画・政治参加についての講義
- ・WHO 神戸センター上級顧問官野崎慎仁郎氏による講義
- ・立命館大学特別招聘教授・外務省顧問藪中三十二氏による講義

- ② **グループディスカッション**
- ・神戸市や長田区の課題やその解決方法についてグループ討議
  - ・模擬請願
  - ・21世紀の担い手となるための財政教育
  - ・模擬代表演説会・模擬投票
- ③ **外部講師によるワークショップ**
- ・兵庫県ビジョン課ビジョン班中山優子氏によるワークショップ
  - ・あおぞら財団研究員栗本知子氏によるワークショップ
  - ・財務省大臣官房文書課広報室當間和幸課長補佐、財務省主計局調査課大炊御門憲嗣課長補佐によるワークショップ
- ④ **フィールドワーク（研究テーマに応じて実施）**
- <地域> 長田区役所、駒ヶ林漁協、NPO法人FMわいわい、NPO法人芸法、レンタルスペース r 3 などでのフィールドワーク
- <地域外> 関西学院大学、金沢大学、福井大学、立教大学
- ⑤ **発表活動**
- ・中間発表会（平成29年6月20日）：外部評価者として、長田区役所まちづくり課の田中丈之氏、長岡善典氏、FMわいわい和田幹司氏を招いて実施
  - ・最終発表会（平成29年9月19日）：外部評価者として、長田区役所まちづくり課の田中丈之氏、長岡善典氏、神戸大学学生ボランティア支援室の東末真紀氏を招いて実施
  - ・金沢大学高大連携ラウンドテーブルに参加（平成30年2月11日、実践活動の発表）
  - ・福井大学高大連携ラウンドテーブルに参加（平成30年2月17日、実践活動の発表）
  - ・立教大学「第4回シティズンシップ教育ミーティング」に参加（平成30年3月24日～25日、実践活動の発表）
- ⑥ **セミナー・各種大会参加**
- ・関西学院大学総合政策学部主催「関学リサーチフェア2017」参加、口頭発表奨励賞を受賞（平成29年11月18日）
  - ・長田区主催「ええやん長田動画コンテスト」にて優秀賞を受賞
  - ・「高校生鉄人化まつり」企画・運営・参加（平成30年3月17日）
- ⑦ **研究テーマに関連したボランティア活動・実践活動**
- ・「空き地の除草作業」ボランティア
  - ・神戸長田「下町芸術祭」連携企画として「駒ヶ林アクアリウム」実施
  - ・「長田神社前商店街食べ歩きマップ」作成・配布
  - ・「第2回親子で楽しめる！長田駒ヶ林漁業体験ツアー」にボランティア参加
  - ・「第3回親子で楽しめる！長田駒ヶ林漁業体験ツアー」に運営スタッフ参加
  - ・長田区役所主催「高取山のスタンプラリー」にて生徒発案菓子「ぼっちょ」販売
  - ・兵庫県神戸市合同庁舎工事壁のデザイン作成
  - ・「高校生鉄人化まつり」実行委員会として参加

- ・兵庫区青少年記者クラブの記者として「Hyogo Pepper」作成
- ・リワールドフェスティバル for Youth にボランティア参加
- ・「東尻池餅つき大会」「真野ふれあいもちつき大会」にボランティア参加

(参考) <各班の研究テーマ> (1年生)

- 1班 駒ヶ林アクアリウム (自治会と連携した空き地活用)
- 2班 グージー食べ歩きマップ (商店街と連携したマップ作成)
- 3班 K O B E おさかな天国プロジェクト (漁業組合と連携したイベントへの追加企画)
- 4班 長田のええとこザ・ベストテン (長田への移住促進の為の動画作成)
- 5班 ぼっちょココバレンタイン (地元商店と連携した商品開発)
- 6班 人と人とをつなぐインスタスポット (地元芸術家と連携したデザイン作成)
- 7班 みんなおいでよ! 鉄人化まつり (長田区と連携したイベント運営)
- 8班 やさしい日本語で外国人にやさしい神戸のまちへ (兵庫区と連携し、外国人住民に向けたコミュニティー新聞作成)

#### 4 学習プログラムの成果の概要

- ① 新聞記事を用いた交換日記形式の「新聞ノート」の取組を実施した。地域の課題研究について、その内容が社会の流れにどのように位置づけられるのかについて理解し、視野を広げることができた。
- ② 外部講師による講義及びワークショップ、生徒間でのグループディスカッションを通して、各自が設定した研究テーマに関する基礎知識を理解し、課題研究への意欲や関心がさらに高まり、研究内容が深化した。
- ③ フィールドワーク、研究テーマに関連したボランティア活動や実践活動を通して、社会に貢献しようとする姿勢、人間関係を構築する力、企画力や行動力などが育まれた。
- ④ 1年間課題研究や実践活動に取り組むことで、将来の自分の進路や生き方など、自己のキャリアについて主体的に考えようとする姿勢が育まれた。
- ⑤ 校内外の発表会やセミナー等に参加し、講演を聞いたり外部参加者からの評価を受けることで、研究内容が深化するとともに生徒のプレゼンテーション能力も高まった。特に、関西学院大学、福井大学、立教大学での実践発表については、大学教員等から高い評価を得ることができた。
- ⑥ 地域課題研究に取り組むなかで「課題解決眼」ともいえる課題発見力が育成され、同時に展開しているSGHの課題研究活動との相乗効果が期待できる。
- ⑦ 平成30年2月26日、本校は長田区と「教育とまちづくりに関する連携協定」を締結した。これまでの実績を踏まえ、連携協定を締結することで、連携事項として互いの位置付けや取組を一層発展、深化させることをねらいとした。連携事項は、(1)教育の推進及び人材育成に関すること、(2)まちづくりの推進事業に関すること、(3)地域課題の解決に関すること、(4)その他前条の目的を達成するために必要な事項に関することである。

# 駒ヶ林アクアリウムで人と空き地を繋げよう



兵庫県立兵庫高等学校 創造科学科 飯塚 輝雄 大下 真依 吳 佳枝 根本 建 橋谷 優奈

## 【活動目的】

- ・ 芸術を用いて空き地の環境を改善
- ・ 地域住民同士の交流を活発にする
- ・ 地域住民が大切にしようと思える場所を創る

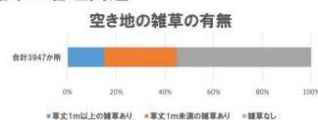
↓  
**廃れてしまった駒ヶ林水族館をリニューアル！！**

## 課題

### 長田区の空き地問題

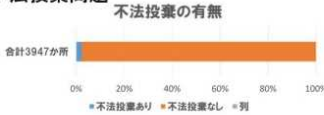
- ・ 総空き地数3947か所 (H26年)
- 再利用のコストが大きいので、放置されている。

### グラフ① 雑草の管理問題



- ・ 全体の4割強が雑草の茂る空き地
- 管理の行き届いていない空き地が多い

### グラフ② 不法投棄問題



- ・ 捨てられるものが同じ箇所に集中している

## 先行事例研究の内容

### ① 下町芸術祭

- ・ アートで地域を豊かにするためのイベント
- ・ 空き地でアートプログラム

### ② 駒ヶ林双葉じょう広場

- ・ 子供たちがチョークで遊べる
- ・ 災害時は伝言板として活用



### ③ 駒ヶ林水族園

- ・ 先輩たちが制作した空き地活用アート作品

**\* しかし、管理不十分で変わり果てた姿に...**



## 実践活動の過程

### ① フィールドワーク 5/26

- NPO法人芸法 副理事長
- タヨ・コーポレート株式会社 代表取締役 小國 陽佑さん
- 学んだこと「プロセスと人間関係の重要性」
- ・ リレーショナルアート=関係性の美学
- 地域の人々との交流の中で一つの作品を作る

### ② 空き地の除草作業 7/31 8/4~8/6

- ・ 除草剤散布
- ・ 雑草抜き
- ・ 古いブルーシートの撤去
- ・ 防草シート敷き



- ・ 空き地を埋め尽くすほどの雑草を除去するとともに、地域の住民の方とも交流を深めることができた。

### ③ ワークショップ開催 11/4

- ・ 子供たちに絵を描いてもらう
- ・ 「駒ヶ林アクアリウム」の完成



- ・ 参加..子供12人 大人8人 高校生7人
- ・ 2年前の「駒ヶ林水族園」の反省をふまえて行えた。
- ・ 準備に手間取ってしまった。
- ・ 参加者の感想  
子供) 楽しかった また参加したい  
大人) 簡単な内容であればこの作品の維持に協力してもよい
- ・ 「人と空き地を繋げる」達成⇒**ワークショップ大成功!**



## 【まとめ】

まず、最終目標だったワークショップを無事に終わることができてよかった。今までの活動を通して、地域に根ざして活動することの大変さ、計画通り行う難しさとともに、協力して1つのことを成し遂げる楽しさを感じることができた。この駒ヶ林アクアリウムがこれからも残すための最善の方法を考えていくことがこれからの課題だ。



**実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等**

**1. 実践校について**

実践校名	(ひょうごけんりつにしのみやいまづこうとうがっこう) 兵庫県立西宮今津高等学校		
学科名	生徒数	学級数	
全日制 総合学科	705名 (平成30年2月1日現在)	18学級	

**2. 実践研究の対象**

- 3年次 「課題研究」6クラス 230名  
3年次 学校設定科目「今津プロデュース」18名

**3. 実践研究の実施経過**

<課題研究関係>

- 平成29年 3月 「課題研究を深めるボランティア体験Ⅰ」  
平成29年 4月 授業「課題研究」スタート、評価方法の見直しを行い、年間の活動をパフォーマンス評価で実施する。  
平成29年 5月 職員研修会（関西大学森朋子教授）  
平成29年 7月 課題研究を深めるボランティア体験Ⅱ」の2、3年次生への呼びかけ  
平成29年 8月 「課題研究を深めるボランティア体験Ⅱ」実施  
(ガイダンス、体験、振り返り)  
平成29年 9月 「課題研究」論文提出  
平成29年10月 「課題研究」発表会（講座別、学年、全校）  
平成29年11月 「課題研究」要旨完成、要旨集の作成  
平成29年12月 「課題研究」を終えて「身についた力アンケート(社会人基礎力の観点から)」  
平成30年 2月 「総合学科発表会」での成果発表  
平成30年 2月 先進校訪問「東京都立国立高等学校 理科 大野智久先生の授業を中心に」

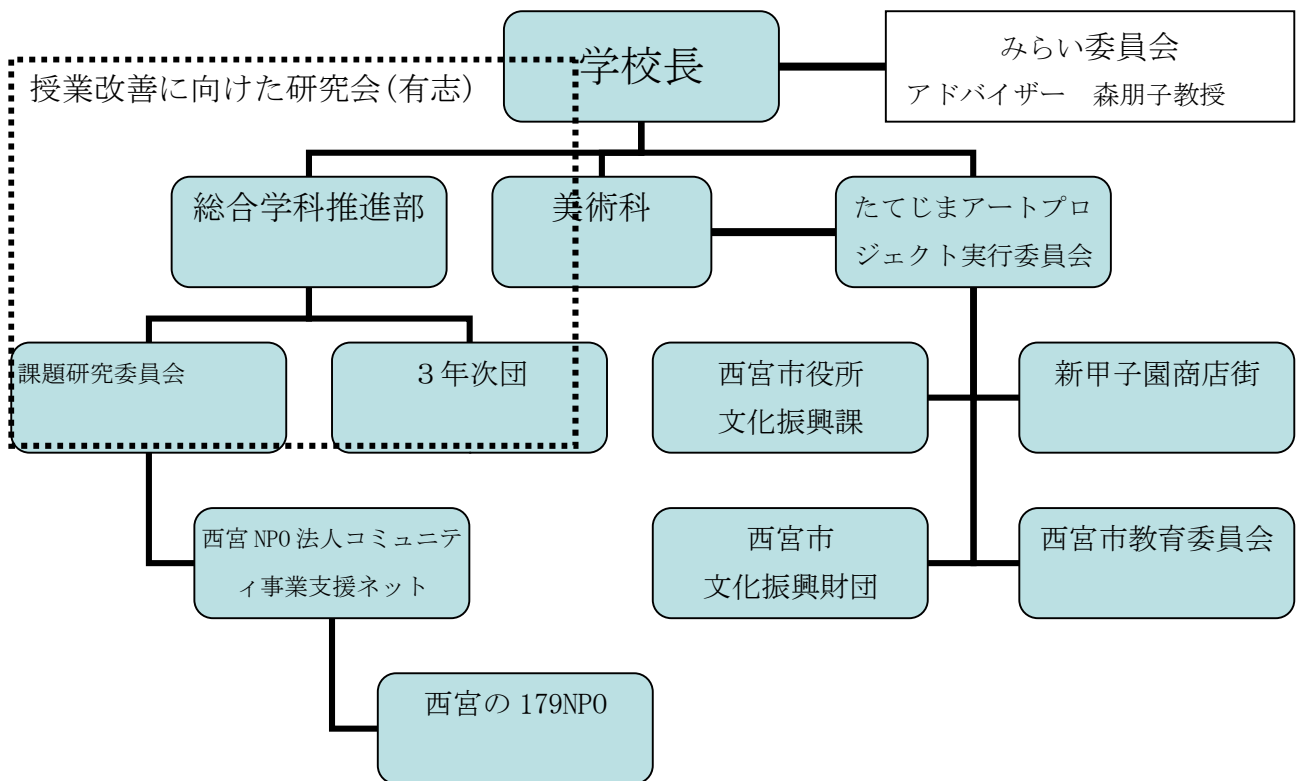
<学校設定科目「今津プロデュース」>

- 平成29年 4月 「たてじまアートプロジェクトで「大切にしたいアート（ビジョン）」の共有

- 平成29年 5月 連携するこどもの作品の選抜
- 平成29年 6月 アートボードの制作、連携するこどものあそびを元にあそびアートの考案、  
と交流手紙
- 平成29年 9月 連携するこどもから手紙のお返事。たてじまアートプロジェクトで披露する  
参加型あそびアートの準備
- 平成29年10月 「たてじまアートプロジェクト2017」オープニング、開催
- 平成29年11月 「たてじまアートまつり」開催、アンケート、プロジェクトの終了、短歌で  
感想、更なるあそび企画を考案
- 平成30年 1月 あそび企画発表会、成果発表（明石）

#### 4. 実践研究の実施体制

（仮称将来を考える）委員会の中で、本校の将来構想と同時に「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」を進める。



#### 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

県教育委員会では、本事業が円滑に実施できるように、県立教育研修所教務部長が社会参画推進委員会のメンバーとして学校に助言を行うほか、高校教育課に担当指導主事を置き、日常的に学校の相談に応じられる体制をとった。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：兵庫県立西宮今津高等学校（総合学科）

### 概要

- 課題研究のテーマ探究学習の中で探究が深まる体験となるボランティア活動を通じて、探究力や汎用的な社会人基礎力を育む学習プログラムを開発する。

### 学習プログラムの目標

- 問う力を持つ18才の市民を育てる
- 探究学習の中で、経験知となりうる体験をマッチングすることで深い探究学習が成立する。

### 学習プログラムの主な内容

- ① 「課題研究」のルーブリック評価を4月に生徒に提示して見通しを持つ
  - ・学習活動の流れを見通し、各段階の評価基準を事前に理解しておく。  
(ルーブリック票・・・別添エクセル「課題研究ルーブリック評価」)
- ② 「課題研究」を深めるボランティア体験
  - ・7月に2、3年生に募集し、希望者に対してガイダンスを行い、各自のテーマに最適な「体験」を「マッチング」して実施し、体験を振り返る活動をすることで、課題研究を深める。
- ③ 「課題研究」論文執筆、発表、要旨
  - ・体験により深まった現場の認識や思考等を論文に反映させ、成果発表する。

### 学習プログラムの成果の概要

- 1年間かけて取り組んだ論文・発表・要旨といった成果物のある「課題研究」では、パフォーマンス評価が生徒、担当者にも有効だった。
- 一人一人の「課題研究」テーマに沿った「体験」を、さまざまな社会組織・人との接点を豊富に持った第三者がマッチングして実施することで、生徒に大きな探究の深まりが生まれた。
- 「課題研究」をプロジェクト学習として取り組むことで、生徒は「体験」を積み上げながら成長した。